

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 7 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号について

このことについて、下記のとおり発表したもので送付します。

特殊報第 1 号

1 害虫名 フタテンミドリヒメヨコバイ
学名 : *Amrasca biguttula* (Ishida)

2 発生作物 ナス

3 発生の経過と概要

令和 6 年 12 月、県南部の冬春ナス生産施設において、葉が黄化、褐変する症状が確認された。本症状の拡大は 1 月にはみられなくなったが、5 月に再発、ほ場に蔓延した。調査の結果、被害株上にて翅中央後方に一対の黒点があるヨコバイが確認された(写真 1)。本虫体を農林水産省門司植物防疫所に同定依頼をしたところ、本県ではこれまで未確認のフタテンミドリヒメヨコバイであることが判明した。

4 国内での発生状況

沖縄県で継続的に発生しているほか、平成 17 年に東京都小笠原諸島、令和 2 年に熊本県、令和 3 年に高知県、令和 4 年に徳島県、令和 5 年に宮崎県、令和 6 年に岡山県で発生が確認され、ナス、オクラ、ハイビスカスに対する被害が確認されている。

5 本種の特徴

(1) 形態

成虫は体長 2.7mm 前後。頭胸部は黄緑色で、頭頂部と翅の中央後方に一対の黒点がある。3～5 齢幼虫は全身がほぼ黄緑色で、胸部背面に 4 個の黒点がある。

(2) 生態

本種は年間で 7 世代発生するとされており、沖縄県での発生は 5～10 月で、特に 7～8 月に多発する。雌成虫は、葉脈に黄白色の卵を一度に 15 個ほど産卵する。卵はふ化直前に灰色がかった黄色になる。卵は 4～11 日でふ化し、幼虫期間は 7～21 日、成虫の寿命は 35～50 日である。

(3) 被害

幼虫、成虫ともに新葉や茎から吸汁する。葉の黄化、萎縮、奇形を呈し、成長が抑制される(写真 2, 3)。

6 防除対策

(1) 防除にあたっては、本虫に対し登録のある農薬を使用する。

(2) 施設栽培においては成虫の侵入を防ぐために、開口部に 2mm 目以下の防虫ネットを設置する。

- (3) 収穫残さは発生源となるため、早期に適切に処分するとともに、施設栽培においては栽培終了後に閉め込み、太陽熱消毒を行う。



写真1 被害株上のフタテンミドリヒメヨコバイ



写真2 ほ場での被害状況



写真3 被害葉の症状

病虫害防除所のホームページでは、各種病虫害の発生状況を随時更新しています。

発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病虫害防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/fukuoka-bouzyosyo.html> または下記QRコード①

○Xアカウント（福岡県農作物病虫害情報）へのアクセス

定期情報や警報等発出のお知らせをしています。

URL : https://x.com/PPDPO_Fukuoka または下記 QR コード②



QR コード①



QR コード②